



ふるさとの偉人「察度」
 察度生誕700年を記念して

みなさんは、「察度」という王様をご存知でしょうか？1372(洪武5)年に中国と公式に貿易を始めた王様で、海洋国家として繁栄を極めた琉球王国の基礎を築いた人物です。

沖縄最古の歌謡集である『おもろさうし』には、謝名地域(大謝名・真志喜・大山を中心とする一帯)の有力者「謝名思ひ」(謝名様)を称えるおもろが残されていますが、この「謝名思ひ」こそが後の察度王と考えられており、察度の偉業は、昔の宜野湾(旧浦添間切)を出発点としています。その意

一ちぐわのひなたをまはす
 こころしきこみりや
 あまの
 えりちのあしとまを
 こころちかもいまる
 あしたれ
 えりちのあしとまを
 のしけなしたるは
 けりちのあしとまを
 こころちかもいまる

▲「おもろさうし」ふし名ナシ 一四ノ一
 察度と思われる「ぢやなもい」を称えています。

味でも、宜野湾市は「ねたて(物事の根元)」と呼べるのではないのでしょうか。

さて、琉球王国の歴史書である『中山世譜』(1697〜1701年編集)によると、察度は1321(至治元年(2021年))は、察度生誕700年を記念して、博物館ではささやかながら様々なイベントを企画しています。

本コラムもその一つで、「茶ぐわ〜ゆんたく」や「はくぶつかんの部屋」、そして文化課の「ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く」でも、3月までの計6回にわたって察度に関するコラムをお届けします。

みなさんが良く知る羽衣伝説をはじめ、察度には様々な伝説が残されているほか、関連する文化財も市内に多く残されています。これを機会に、「ふるさとの偉人」である察度について、知見を深めてみてはいかがでしょうか。



【企画展】
 察度生誕700年記念パネル展

会期:9月8日~12月5日
 場所:博物館1階 ロビー

【市民講座】

①伝承で解き明かす察度王の真実
 講師:伊敷 賢
 (琉球歴史伝承研究所 代表)

日程:9月12日(日)

②はごろも伝説 察度の足跡を辿る
 ~首里・那覇編~

講師:宜野湾市文化財ガイド「察度の会」

日程:9月26日(日)

※申し込みの開始は、当日から3週間前を予定しています。

【問い合わせ】

市立博物館

☎87019317



真志喜森川原第一遺跡

宜野湾市が現在の市域となるきっかけが今からちょうど三五〇年前にあったことをご存知でしょうか？

一六七一年に当時の浦添、中城、北谷の各間切の村を分割・統合して宜野湾間切を新設し、また、その時に真志喜村が新たに設けられたとされています。今回は真志喜地域に縁があり、宜野湾市の偉人の一人でもある察度に関する遺跡を紹介いたします。

察度については、奥間大親と天女が森の川で出会ったのち、ともに暮らし始めたことよって産まれたとされており、その奥間大親の屋敷があったとされる場所が真志喜森川原第一遺跡となっています。

この遺跡では、一九九二年に発掘調査が行われ、察度が活躍したグスク時代の様子が垣間見えてきました。調査を行ったところ、複数の建物跡、炉の跡、食料を蓄えるための貯蔵庫跡などの痕跡が確認できました。また、出土遺物では土器や中国産の陶磁器を中心に釘、鎌などの鉄製品、装飾品、炭化した穀物類、動物の骨など多彩な資料が得られました。この結果から、真志喜森

川原第一遺跡では約八〇〇年〜九〇〇年前から外国の陶磁器を使用し、穀物やウシ・ブタの肉などを口にすることができた地域の有力者がこの場所を拠点に活動していたことが分かりました。

その後、奥間大親や察度が登場し、察度にいたっては、ついに中山王にまで上りつめることができました。察度が誕生する前の有力者と察度との関係性は謎のままですが、察度には「地域の有力者」という土台があったからこそ中山王になることができたのかも知れません。

今回は、遺跡の発掘調査から奥間大親や察度の人物像を想像してみました。皆さんも歴史のロマンに改めて触れてみてはいかがでしょうか。

【お問い合わせ】
 文化課 ☎89314430



▲グスク時代の土器や陶磁器など